

<IPA 情報発信第 154 号の内容>

今月のトピックス

1. 「IPA サイバーセキュリティシンポジウム 2017」の開催

2月8日開催のシンポジウムでは、エストニア共和国元大統領や米国国家安全保障局元長官などをお招きしたパネルディスカッションや基調講演などを行い、世耕経済産業大臣からは新たに設置される「産業サイバーセキュリティセンター」についての発表がありました。当日は盛況で、IPA主催のシンポジウムとしては史上最大となる約1,000名の方にご来場いただきました。

2. 「中小企業の情報セキュリティ対策普及の加速化に向けた共同宣言」を発表

中小企業におけるITの利活用拡大に向け、中小企業と関わりが深い、日本商工会議所など商工団体・士業団体の全国組織、IT関連団体および関連施策の実施機関である独立行政法人と共に、情報セキュリティへの意識啓発および自発的な対策の策定と実践を促進するため、連携して活動することを宣言しました。

3. 「情報セキュリティ 10大脅威 2017」の順位を発表

2016年に社会的影響が大きかった情報セキュリティ脅威トップ10を「10大脅威選考会」の投票により選出し、公表しました。今回は、IoT機器に関する脅威が組織、個人ともに初めてランクインしました。

4. 「産業サイバーセキュリティセンター」の受講者募集を開始

来る4月に発足する「産業サイバーセキュリティセンター」の人材育成事業として、7月より始動する教育プログラムに参加する受講者の募集を開始しました。当センター長には、株式会社日立製作所 取締役会長兼代表執行役 中西宏明氏が就任いたします。

I. 安全なIT社会の実現

1. 「組織における内部不正防止ガイドライン」日本語版を第4版に更新
2. 偽警告の新たな手口に要注意！～マイクロソフトのサイトに酷似した画面で電話に誘導～
3. 「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）」の初回登録申請人数を公表
4. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 近畿 2017（京都）」を開催
5. 重要なセキュリティ情報（2月）

II. ITシステムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

1. IoTの高信頼化に向けた分野間連携の実証実験を開始へ ～産業ロボット分野とスマートエネルギー分野の連携システムを対象に産学官で実施～
2. 「【SEC特別セミナー】インダストリー4.0で創る横浜のイノベーション」を開催
3. 「ソフトウェアアジア 2017 データとAIが創り出す新たな価値」に出展
4. 2016年度SPEAK-IPA準アセッサ育成コースを4名が修了 ～ソフトウェア開発プロセスの改善を推進する人材育成～

5. 「情報処理システム高信頼化教訓のリンク集（IT サービス編）」に新規教訓を公開
6. 「第6回全国組込み産業フォーラム」にて講演
7. 「NSPICE Conference2017 - プロセス改善の輪を広げよう -」にて講演
8. SEC セミナー開催報告（2月）および開催案内（3月）

Ⅲ. 未来の IT 社会を担う人材の育成とビジネス支援・技術開発促進

1. アイルランドの研究機関「IVI」と「i コンピテンシ ディクショナリ (iCD)」利用許諾契約を締結
2. 「MITOU2016 Demo Day (2016年度 (第23回) 未踏事業成果報告会)」を開催

今月のトピックス

1. 「IPA サイバーセキュリティシンポジウム 2017」の開催

(担当：戦略企画部)

IPA は、2月8日(水)、東京(日本橋)にて「IPA サイバーセキュリティシンポジウム 2017」を開催しました。

当シンポジウムは“サイバーセキュリティ人材 2020年3万人確保に向けて”をテーマに掲げ、企業など組織運営に携わる方々に広くサイバーセキュリティへの理解を深めていただくことを目的に、パネルディスカッションや基調講演などを行いました。さらに、世耕経済産業大臣から、来期新たな事業として設置される「産業サイバーセキュリティセンター」についての発表がありました。

パネルディスカッションでは、モデレータに慶応義塾大学 環境情報学部長教授 村井純氏を迎え、デジタルエコノミーとサイバー空間のあり方を示しました。パネリストとして、サイバーセキュリティの先進国であるエストニア共和国元大統領トーマス・ヘンドリック・イルヴェス氏などが登壇し、別のパネルディスカッションにおいても、米国国家安全保障局(NSA)元長官キース・アレキサンダー氏などが登壇しました。また、基調講演では、講演者に内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室 政府CIO 補佐官 根本直樹氏、および株式会社ベネッセインフォシエル 代表取締役社長 丸山司郎氏を迎え、経営者が備えておくべきサイバーセキュリティ対策の教訓とITガバナンスの強化の考え方を示しました。

当日は盛況で、IPA主催のシンポジウムとしては史上最大となる約1,000名の方にご来場いただきました。

IPAは、今後もサイバーセキュリティ人材確保に向けた制度・施策、グローバルな最新の脅威と対策を企業や国民に広く周知していきます。

「IPA サイバーセキュリティシンポジウム 2017」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20170111.html>

2. 「中小企業の情報セキュリティ対策普及の加速化に向けた共同宣言」を発表

(担当：セキュリティセンター)

IPAは、中小企業におけるITの利活用拡大に向け、一般社団法人中小企業診断協会、全国社会保険労務士会連合会、全国商工会連合会、全国中小企業団体中央会、特定非営利活動法人ITコーディネータ協会、特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会、独立行政法人中小企業基盤整備機構、日本商工会議所および日本税理士会連合会(五十音順)と共に、中小企業における情

報セキュリティへの意識啓発および自発的な対策の策定、実践を促進するため、連携して活動することを2月7日（火）に宣言しました。

今回の共同宣言は、中小企業と関わりの深い商工団体・士業団体の全国組織、IT関連団体および関連する施策の実施機関である独立行政法人が経済産業省、中小企業庁の協力の下、強固な連携により、各団体・組織の機能や特徴を生かしながら、中小企業の自発的な情報セキュリティ対策を促す活動を推進することを目的としています。

今回の活動において“自発的な情報セキュリティ対策を促す”ための核となる取り組みとして、中小企業自らが取り組みを宣言する制度「SECURITY ACTION」を創設し、この宣言企業拡大を目指した活動を展開していきます。

「中小企業の情報セキュリティ対策普及の加速化に向けた共同宣言の発表」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20170207.html>

3. 「情報セキュリティ 10 大脅威 2017」の順位を発表

(担当：セキュリティセンター)

IPAは、情報セキュリティにおける脅威のうち、2016年に社会的影響が大きかったトピックなどを「10大脅威選考会」の投票によりトップ10を選出し、「情報セキュリティ 10大脅威 2017」として順位を決定し、1月31日（火）に公表しました。

2017年も昨年同様に「個人」と「組織」という異なる視点で10大脅威を選出しています。「個人」1位は「インターネットバンキングやクレジットカード情報の不正利用」、「組織」1位は「標的型攻撃による情報流出」となり、昨年から変動はありませんでした。一方、IoT機器に関する脅威が組織、個人ともに初めてランクインしました。

IPAでは、3月下旬にこの「情報セキュリティ 10大脅威 2017」の詳しい解説をウェブサイトで公開する予定です。

「情報セキュリティ 10大脅威 2017」の決定の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20170131.html>

4. 「産業サイバーセキュリティセンター」の受講者募集を開始

(担当：IT人材育成企画部)

IPAは、来る4月に発足する「産業サイバーセキュリティセンター」の人材育成事業として、7月より教育プログラムを始動します。これに先駆け、この

プログラムに参加する受講者の募集を2月20日（月）から開始しました。

当センター長には、株式会社日立製作所 取締役会長兼代表執行役 中西宏明氏が就任いたします。

教育プログラムでは、模擬プラントを用いた演習や、最新のサイバー攻撃情報の調査・分析等を通じて、OT（制御技術）とIT（情報技術）双方のスキルを核に、その対策を推進するために必要な「ビジネススキル」「マネジメント・リーダーシップ」「倫理・規範・法制理解」等のカリキュラムが用意されています。当プログラムには、既に電力、ガスのみならず、鉄道、自動車、不動産など様々な業種における30社以上の企業が参加を表明しています。

IPAは、2020年の東京オリンピック開催を控え、わが国への混乱・ダメージを狙ったサイバー攻撃のリスク増大に対抗できる高度な知識・技能、経営課題としてのセキュリティ対策を推進できるリーダーシップ・マネジメント力を備えた人材を育成していきます。

『「産業サイバーセキュリティセンター」の教育プログラム始動』の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/press/20170208.html>

I. 安全なIT社会の実現

1. 「組織における内部不正防止ガイドライン」日本語版を第4版に更新

（担当：セキュリティセンター）

IPAは、企業やその他の組織において必要な内部不正対策を効果的に実施可能とすることを目的として作成した「組織における内部不正防止ガイドライン」日本語版の第4版を1月31日（火）に公表しました。

本ガイドラインは、これまで内部不正対策について「考えてこなかった」「何をすればよいかわからなかった」という企業であっても、内部不正対策の整備を可能とすることを目指したほか、内部不正防止だけでなく、発生してしまった際の早期発見・拡大防止をも視野に入れた構成としています。また、第4版の主な改定ポイントは以下の通りです。

- ・ 新たな法制度および情報セキュリティに関連したガイドライン等への対応
- ・ 内部不正事例、コラムの追加
- ・ 本ガイドラインに対する企業等からの要望への対応

IPAは、本ガイドラインを公開することによって、効果的な内部不正対策が多くの組織に広がることを期待するとともに、今後も組織における内部不正の

防止に向けた取り組みを推進していきます。

「組織における内部不正防止ガイドライン」日本語版（第4版）の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/fy24/reports/insider/index.html>

2. 偽警告の新たな手口に要注意！～マイクロソフトのサイトに酷似した画面で電話に誘導～

(担当：セキュリティセンター)

IPA は、マイクロソフト社のウェブサイトと酷似した画面上に警告メッセージを表示させ、同社を騙って電話に誘導するという、今年に入ってからの新たな手口を確認し、1月31日（火）に公表しました。

今回確認された手口では、利用者がマイクロソフト社の正式な警告と誤認する可能性が高く、その結果、不審に思わずに電話をかけてしまい、遠隔操作によるサポートや契約手続きを受け入れてしまう懸念があります。インターネット利用中に“セキュリティの問題が発生”などといった警告メッセージが表示された際には、その内容を鵜呑みにせず、まずはメーカーのサポート窓口や IPA などの公的機関の相談窓口に相談するようにしてください。

「偽警告の新たな手口に要注意！～マイクロソフトのサイトに酷似した画面で電話に誘導～」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/anshin/mgdayori20170131.html>

3. 「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）」の初回登録申請人数を公表

(担当：HRD イニシアティブセンター)

2016年10月24日から受付を開始した新たな国家資格「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）」の初回登録申請を2017年1月31日（火）で締め切りました。第一回目の登録となる今回は4,175名からの申請があり、現在、申請書類の審査を順次進めているところです。

初回申請者の登録日は2017年4月1日付となり、同日以降に順次登録情報などの公開を行うとともに、登録者には IPA 理事長名の登録証、および講習受講計画を送付します。

なお、2017年2月1日（水）からは、次回登録（同年10月1日付）の申請受付を開始しました。

「情報処理安全確保支援士（登録セキスペ）制度」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/siensi/index.html>

4. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 近畿 2017（京都）」を開催

（担当：イノベーション人材センター）

IPA は、京都女子大学現代社会学部、立命館大学情報理工学部、セキュリティ・キャンプ実施協議会と共同で「セキュリティ・ミニキャンプ in 近畿 2017（京都）」を 2 月 25 日（土）から 26 日（日）までの 2 日間開催しました。

京都府でのセキュリティ・ミニキャンプの開催は初めてで、一般講座と専門講座の 2 講座を実施しました。

一般講座（参加者 198 名）では、IPA 講師からウェブサイトの作成時における注意点を題材とした一般向けの啓発講演などが行われました。

また、専門講座（参加者 21 名）では、Web アプリケーションの作成・運用に関する実践的な講義などが行われました。

「セキュリティ・ミニキャンプ in 近畿 2017（京都）」の詳細については、次の URL をご覧ください。

https://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2016/minicamp2017_kinki.html

5. 重要なセキュリティ情報（2 月）

（担当：セキュリティセンター）

IPA では、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報¹」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA 情報発信では 2013 年 12 月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身の PC やシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください

2 月は、「緊急」1 件、「注意」3 件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

¹ 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「注意」・・・影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

II. ITシステムの安心・安全の確保と開発・利活用の効率化

1. IoTの高信頼化に向けた分野間連携の実証実験を開始へ ～産業ロボット分野とスマートエネルギー分野の連携システムを対象に産学官で実施～

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPAは、2月8日(水)にIoT時代(つながる世界)における安全・安心を確保する技術に関する実証実験をIPA、ORiN協議会、一般社団法人エコーネットコンソーシアム、学校法人幾徳学園 神奈川工科大学の4者共同で開始しました。

本実験は、産業ロボット用ソフトウェアORiN²と家電製品等に適用可能な接続仕様ECHONET Lite(エコーネットライト)という、異なる2分野のシステムを接続した環境でシステムの異常を検知する手法の実証を目指すものです。

IPAは、本実験で得られた結果を報告書として公開することで、産業界でのリスク認識と対策の進展に寄与することを期待しています。また、将来的には国内のみならず、IoTで先行しているドイツ・米国などの国々のシステムとの接続実験に発展させていきます。

本実証実験の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/sec/info/20170201.html>

2. 「【SEC特別セミナー】インダストリー4.0で創る横浜のイノベーション」を開催

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPAは、2月27日(月)に横浜情報文化センター(神奈川県横浜市)にて、「【SEC特別セミナー】インダストリー4.0³で創る横浜のイノベーション」を横浜市経済局と公益財団法人横浜企業経営支援財団(IDEA)と共同で開催しました。

本セミナーでは、横浜市の市域全体を活用したIoT推進プラットフォーム構築に向けた取組み紹介の後、ドイツフラウンホーファー研究機構IESEのマーカ

² ORiN(Open Resource interface for the Network):ORiN協議会により制定された工場情報システムのための標準ミドルウェア仕様として、製造現場の各種装置に対して、メーカーや製品の違いを超えて統一的なアクセス手段を提供するソフトウェア。パソコンのアプリケーションから、異なるメーカーのロボット、工作機械などの制御装置の情報に共通化された方法でアクセスできる。

³ ドイツにおける新造語で、ネットワークを介して工場内の産業機械とそれらを制御するシステム、あるいは工場同士といった様々なレベルのモノを接続し、データのリアルタイムな共有と製造工程の標準化によって柔軟な生産を可能にする取り組み。

ス・ダム氏およびトーマス・クーン氏より、インダストリー4.0のコンセプトと適用事例についてご講演いただきました。また、国内でIoTを活用したイノベーションに取り組む有識者によるパネルディスカッションも実施し、日本とドイツの相違点・共通点も含めてご議論いただき、当日は約190名の方にご参加いただきました。IPAでは、今後も高信頼なIoTの利活用に向けた取組みを継続していきます。

「【SEC 特別セミナー】インダストリー4.0で創る横浜のイノベーション」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170227.html>

3. 「ソフトウェアジャパン 2017 データとAIが創り出す新たな価値」に出展 (担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPAは、2月3日(金)に一橋大学 一橋講堂会議室/学術総合センター 国立情報学研究所(東京都千代田区)にて開催された「ソフトウェアジャパン 2017 データとAIが創り出す新たな価値」に出展しました。

本イベントは、一般社団法人情報処理学会の主催によるもので、大学などの研究機関や企業で開発が進む様々なAIやビッグデータに関する技術を紹介するとともに、それらが社会に与える影響やリスクについての基調講演が行われました。

IPAは「ITフォーラムセッション」にて、「ソフトウェアの安全と安心」というテーマで3つの講演を行いました。

当日は、56名の方に聴講いただき、来場者からは「具体的事例をもつての説明で理解が深まった」、「特にiGDは明確になり見えそうだと思います。内容を見たいと思っています」といったご意見を頂きました。

IPAでは、これらのご意見を基に、今後もIoTなどの先端技術の安全性に関する情報提供を継続していきます。

「ソフトウェアジャパン 2017 データとAIが創り出す新たな価値」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/events/20170203.html>

4. 2016年度SPEAK-IPA準アセッサ育成コースを4名が修了 ～ソフトウェア開発プロセスの改善を推進する人材育成～ (担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPAが実施するコースセミナー「SPEAK-IPA準アセッサ育成セミナー」で、今年度は4名が修了しました。

本コースは、2013 年度よりソフトウェアプロセス改善⁴推進者の育成を目的に、関係機関とも協力しながら、講義と演習を実施する全 6 日間のコースです。また、掲載の許可を頂いた 4 名の方の感想を 2 月 22 日（水）に公開しました。

IPA は本コース修了者の方々の活躍により、ソフトウェアプロセス改善の取組みが普及することを期待するとともに、来年度も本コースを開催し、プロセス改善推進者を育成していきます。

本件の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/sec/info/20170222.html>

5. 「情報処理システム高信頼化教訓集（IT サービス編）」に新規教訓を公開 （担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPA は今月、障害事例情報の収集・分析により得られた「教訓」を集めた「情報処理システム高信頼化教訓集」に新たに 2 件の教訓を追加しました。

公開日	教訓 ID	教訓の種類	教訓のタイトル
2 月 10 日	T25	原因不明の障害への対応に関する教訓	障害原因が不明でも再発予防と発生時対策はできる
2 月 23 日	T26	既存システムの流用開発に関する教訓	既存システムの流用開発はその前提条件を十分把握し、そのまま利用可能な部分と変更する部分を調査して実施する

IPA では、2013 年度から情報処理システムの障害事例情報の収集・分析により得られたノウハウや知見を「教訓」として整理・体系化し、「情報処理システム高信頼化教訓のリンク集（IT サービス編）」にて随時公開しています。本取組みを通じて各「教訓」の活用を促進し、情報処理システムの障害とそれに伴う被害が最小限に抑えられることを期待します。

「情報処理システム高信頼化教訓のリンク集（IT サービス編）」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/system/lesson.html>

⁴ ソフトウェア(製品)の品質の安定・向上を達成するために仕事のやり方を工夫する取組み

6. 「第6回全国組込み産業フォーラム」にて講演

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPAは、2月17日(金)に一般社団法人電子情報技術産業協会(東京都千代田区)で開催された「第6回全国組込み産業フォーラム」にて講演しました。

本フォーラムは、組込みシステム産業振興機構の主催による、各地域の組込み産業の抱える課題の共有や連携促進を目的とした講演や関係団体の活動紹介を行うものです。

当日は「IPA/SECにおけるシステム高信頼化への取組み」というテーマで講演を行い、75名の方に聴講いただきました。IPAでは、今後もIoT時代に向けて幅広い技術が求められる組込み技術者向けの情報発信を継続していきます。

「第6回全国組込み産業フォーラム」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.kansai-kumikomi.net/schedule/info/170217.html>

7. 「NSPICE Conference2017 ープロセス改善の輪を広げようー」にて講演

(担当：ソフトウェア高信頼化センター)

IPAは、2月24日(金)に名古屋市工業研究所ホール(愛知県名古屋市)で開催された「NSPICE Conference2017 ープロセス改善の輪を広げようー」にて講演しました。

本カンファレンスは、日本SPICEネットワークの主催による、国際規格ISO/IEC 15504(SPICE)⁵を活用したプロセス改善技術の向上を目的としたものです。

当日は「セーフティ・セキュリティ開発とアシュアランスケース」というテーマで講演を行い、約130名の方に聴講いただきました。IPAは、今後も安全・安心なソフトウェアを効率的に開発するための情報発信を継続していきます。

「NSPICE Conference2017 ープロセス改善の輪を広げようー」の詳細については、次のURLをご覧ください。

http://www.nspice.net/modules/activity/index.php?content_id=36

⁵ プロセス改善と能力判定のためのアセスメント体系を規定する国際標準。自律的プロセス改善及びサプライヤのプロセス能力判定におけるプロセスアセスメントの利用方法について、全般的な情報を提供する。原案作成に寄与したプロジェクト名にちなんでSPICE(Software Process Improvement and Capability dEtermination)と呼称される場合がある。

8. SEC セミナー開催報告（2月）および開催案内（3月）

（担当：ソフトウェア高信頼化センター）

IPAは、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

2月は、次の日程で実施しました。

- ・宮城の活力を創るデジタルイノベーション 入門セミナー
～価値を創るIoTとITシステム開発の基盤強化に向けて～（2月22日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170222.html>

- ・組織のプロセス改善に向けたソフトウェア開発定量管理の勧め
～基本となる考え方と白書データから得られた知見、企業での実践例を紹介～（2月28日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170228.html>

3月は、次の日程で開催を予定しています。

- ・社会とビジネスを変えるIoTセミナー
～最新事例から学ぶ～（神戸開催3月1日、福岡開催3月2日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170301.html>

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170302.html>

- ・事例から学ぶITサービスの高信頼化へのアプローチ【第4回】
～システム障害事例分析から導出した教訓共有のすすめ（演習付）～（3月8日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170308.html>

- ・システム開発の“今”と“これから”
～システムズエンジニアリングを活用するために～（3月13日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170313.html>

- ・成功と失敗に学ぶシステム開発@大阪
～先進的な取り組みの実践例と過去の教訓～（3月18日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20170318.html>

Ⅲ. 未来の IT 社会を担う人材の育成とビジネス支援・技術開発促進

1. アイルランドの研究機関「IVI」⁶と「i コンピテンシ ディクショナリ (iCD)」 利用許諾契約を締結

(担当：HRD イニシアティブセンター)

IPA は、IVI が提供する「IT-CMF」⁷において「iCD」を使用することを許諾する契約を 2 月 23 日（木）に IVI と締結しました。

IPA と IVI は昨年 4 月、それぞれが開発する「iCD」と「IT-CMF」を関係させることにより、経営者層の IT 戦略策定から開発現場における実行手段まで一貫して使用できるフレームワークを構築するための相互協力協定を締結し、実証実験を行いました。当実験の結果、フレームワーク構築の実現可能性を評価できたことから、両組織協議の結果、今回の契約締結に至りました。

今後 IPA は、「iCD」を関係した「IT-CMF」の商用利用を国際的に推進する IVI との連携により、「iCD」のグローバル化がさらに進展することを期待します。

本件の詳細については、次の URL をご覧ください。

http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/i_competency_dictionary/20170224.html

2. 「MITOU2016 Demo Day (2016 年度 (第 23 回) 未踏事業成果報告会)」を開催

(担当：イノベーション人材センター)

IPA は「2016 年度未踏 IT 人材発掘・育成事業」で採択したプロジェクト 16 件の成果報告会を、2 月 18 日（土）、19 日（日）にアキバプラザ（東京都千代田区）で開催しました。

本報告会は、約 9 ヶ月をかけて進めてきたプロジェクトの成果について各クリエイターから報告があり、来場者との質疑応答が活発に行われました。2 日間を通して延べ 200 名近い方々にご来場いただきました。さらに、インターネットを使ったライブ配信には、延べ 2,000 件以上のアクセスがあり、多くの方々にクリエイターの成果をご覧いただきました。

「MITOU2016 Demo Day」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/jinzai/mitou/2016/seikahoukoku23th.html>

⁶ IVI (Innovation Value Institute) : アイルランド国立大学 Maynooth 校とインテル・コーポレーションが共同で設立したテクノロジーに関する非営利の研究機関。

⁷ IT-CMF (IT Capability Maturity Framework) : IT がビジネスに貢献するという観点に重きを置き、主に CIO や IT の意思決定者を対象に、企業・組織の IT 能力成熟度を測定・改善するためのフレームワーク。

●IPA 組織図



本書に関するお問合せ先
 戦略企画部 企画・調査G 笛木・野村
 〒113-6591
 東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号
 文京グリーンコートセンターオフィス
 TEL : 03-5978-7503
 E-mail : spd-plan@ipa. go. jp